

目 次

はじめに i

凡 例 vi

序 章 ドイツにおける平和主義と平和運動 ————— 1

本書の視角／平和主義的フォーラムとしての週刊誌『ヴェルトビューネ』
と『ターゲ・ブーフ』／知識人と平和主義

第1章 ヴァイマル知識人の思想としての平和主義 ————— 21

第1節 ドイツにおける平和運動の開始 21

カントの平和思想と啓蒙思想／19世紀の平和運動の2つの潮流／第一次
世界大戦と平和主義者

第2節 ヴァイマル共和国期のドイツの外交 28

ヴェルサイユ条約とその影響／ヴェルサイユ体制における国際連盟の役
割／ルール闘争——フランスとの対立／賠償問題——ドーズ案とヤング
案／シュレーゼマン外交——ロカルノ条約、国際連盟加入と修正政策／
ヴァイマル共和国期末期の外交

第3節 ヴァイマル共和国期の平和主義の特徴 37

国際法的平和主義（穏健派平和主義）／社会主義的平和主義（急進派平和
主義）／革命的平和主義／反軍国主義と反戦争崇拜としての平和主義／生
きる権利の擁護としての平和主義／精神改革としての平和主義／共和国
と民主主義の保護としての平和主義

第4節 平和団体の活動 50

ドイツ平和協会／革命的平和主義者グループ／ドイツ人権同盟／「従軍
兵士の平和同盟」と「戦争はもうごめん」運動

第5節 政党における外交問題への対応と「平和」 59

社会民主党／民主党／共産党／共和党

第2章 ヴァイマル共和国期の平和主義者の外交記事 ————— 75

第1節	国際連盟と軍縮	75
	国際連盟設立のための運動／常任理事国の椅子をめぐる／「諸国民なき国際連盟」／不戦条約	
第2節	シュトレゼマンと平和主義者	94
	ロカルノ会議／「シュトレゼマンは平和主義者か」／シュトレゼマン追悼	
第3節	ヨーロッパ統合論	104
	ヴァイマル共和国期のヨーロッパ統合運動／パンヨーロッパ運動に対する反応／ブリアンのヨーロッパ合衆国構想に対する反応	
第4節	東方問題	122
	ソヴィエト連邦との関係／ジェノヴァ会議とラバック条約／ポーランドとの関係	
第5節	東アジア問題	132
	帝国主義国の「餌食」としての中国／日本の中国侵略	

第3章 ヴァイマル共和国の崩壊と平和主義者 ————— 147

第1節	平和主義者と国家反逆罪裁判	147
	平和主義者に対する暴力／平和主義者と国家反逆者裁判／「闇の国防軍」問題／『ヴェルトビューネ』裁判	
第2節	平和運動の分裂と衰退	161
	ドイツ平和協会の分裂／ヒトラーと平和主義者	
第3節	亡命とヴァイマル知識人の抵抗運動	168
	亡命の状況／文学者の反ファシズム運動	

第4章 第二次世界大戦後の平和運動 ————— 179

第1節	冷戦期におけるドイツの「平和」	179
	ヴァイマル共和国期の平和主義者の戦後／「もうひとつのドイツ」の評価／平和運動の断絶と再開	
第2節	西ドイツの反核平和運動	185
	NATOの核と西ドイツ／核不拡散体制の開始／デタントから新冷戦へ／1980年代初頭におけるヨーロッパ反核平和運動の高揚とドイツ／西ドイ	

ツでの展開／1980年代初頭の反核平和運動の特徴／1980年代初頭の平和運動の影響

終 章 平和運動の変化と現在 ————— 205

ドイツの平和運動の歴史的変化／ヴァイマル共和国期の平和運動と現在

おわりに 211

文献目録 217

事項索引 239

人名索引 242